

ひも状粘土を円柱状に積んだ形を生かして！

—— 素朴な化粧土で装飾を施した「顔のある創作花器」 ——



表現内容の要素と発想の視点

- ・表現材料：テラコッタ粘土
／楽焼用粘土、化粧土（酸化第二鉄、二酸化マンガ
ン）
- ・造形要素（色／形／材質）：
袋状円柱立体形、装飾的
文様、白、茶系色彩の対
比
- ・表現技法：ひもづくり／輪
積み、線彫り、掻き落と
し、貼りつけ、化粧描き、
印花、レリーフ、ほか
- ・表現様式：具象形、抽象形
- ・表現対象／主題：顔のある
花器／円柱状態を生か
し、顔を装飾的に表現す
る創作花器

写真1 「花器・三日月の夜
に！」[約 1150℃焼成／無釉]
(高さ約 38cm)

造形発想と表現について

粘土で筒状の円柱立体形をつくるのに「ひもづくり」、「輪積み」の技法がある。この技法では、縄文土器などから想像できるように、穏やかで有機的な立体形が生まれる。

ここでは絵付けロクロによるひもづくり、輪積みの技法で円柱形の創作花器をつくる。

花器には、有機的な立体成形からイメージを広げて発想し、装飾的な顔のデザインを施すことにした。花器の形は造形性の表現であるが、顔の表情や装飾文様を施すことで文学性、物語的な表現を付加することになる。

彩色には素朴な白色と茶色系の化粧土を限定し、それらを混色しながら描く。素朴で落ち着いた

いた色合いの組み合わせに統一した。

その他、粘土の「貼りつけ」、「線彫り」や「掻き落とし」、「印花」などの技法を自由に混用し、装飾効果を高める。

ここでの焼成は、無釉、焼き締めとした。

用具／材料

テラコッタ粘土（約3～7kg）、楽焼用粘土（白色化粧土用）、酸化第二鉄、二酸化マンガ、絵付けロクロ、粘土板、粘土べら／切り針／細工かん（各種）、コテ、なめし皮、筆、パレット、カップ、切り糸、雑巾ほか

表現のプロセスと内容

●輪積みの技法で筒状、円柱立体形の花器をつくる

- つくりたい顔のある創作花器の形や大きさを大まかにイメージしておく。
- 絵付けロクロの上に円形の花器の底をつくる。作例は直径約 12cm である。(写真 2) 《粘土を円形ハンバーグ状に丸めてロクロの上に固定する。ロクロを少しずつ回転させながら、底の大きさより少し大き目に粘土を延ばしていく。厚さ約 1 cm 程度は必要である。》
- 底の大きさに合わせて、ロクロを少しずつ回転させながら、粘土切り針で円形の切り込みを入れる。(写真 3) 《慣れるとロクロを速く回転させながら粘土切り針で正円を切り取ることができる。》
- 切り込みを入れた余分な粘土を切り取り、底をつくる。作例は底の厚さ約 1.5cm。(写

真 4)

- 太さが均等なひも状粘土をつくる。
《ひも状粘土の太さは作品の大きさや技量によって異なるが、ここでは約 1.5cm の太さにした。》
※ひも状粘土のつくり方は二通りある。
ひとつは、粘土板や机上で、あらかじめ棒状に延ばした粘土を手の平でゆっくり回転させながら、太さを均質の延ばしていく方法。(写真 5-1)
もう一つは、あらかじめ棒状に延ばした粘土を両手の平ではさみ、もみ合わせるように太さを均質の延ばしていく方法。こちらの方法はある程度の熟練が必要である。(写真 5-2)
- 底にひも状粘土を積む接続面を、ロクロをゆっくり回転させながらへらなどでキズをつけ、荒らしておく。(写真 6)



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5-1



写真 5-2

《接続する相互の粘土を接続面でしっかり噛み合わせるためである。》

- 底に1段目のひも状粘土を積む。(写真7)
《接続面にどべを塗ってひも状粘土を底にしっかりと接続、固定する。また、複数の指で粘土を挟み込み、厚さが均等になるように整える。作例では約1cm。》

※ここではひも状粘土を1段1段しっかりとドーナツ状に積んでいく。輪積みの技法である。この方法は1段1段のバランスを見ながら積んでいくので、形が崩れにくい。また、ひも状粘土の長さを生かし、蛇のようにグルグル巻いていく方法もある。これは形が崩れやすいので、ひもづくりに慣れてきたらお勧めする。

- 1段目の上に、2段目のひも状粘土を積む。(写真8)



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11

《2段目以後はどべを塗る必要はない。ひも状粘土を積み重ねる部分の内側から蛇腹のように接続面を広くとり、粘土を均一に潰しながら接続していくからである。》

《輪積みの最初と最後の部分は特に丁寧に接続する。》(写真9)

- ひも状粘土を任意の高さまで繰り返し積み重ねていく。(写真10)

《花器の任意の形、径の大きさに合わせ輪積みの径を広げたり、狭めたりしながら積む。途中で極端に広げると崩れるので注意する。作例では僅かに径を広げている》

《何段か積んだら、積んだ粘土の接続面を表裏から手や指を使って丁寧に潰し、整える。》(写真11・12)

《コテなどを使って、さらに丁寧に粘土の表面をならし、整える。》(写真13)

- ある程度の任意の高さまで粘土を積んだら、形を手で変形（デフォルメ）することもできる。（写真 14）
- つくりたい花器の形に合わせて、さらにひも状粘土を積み重ねていく。
《作例では、円柱形の上部を少しずつ狭めた形である。》（写真 15）
《円柱形を狭めていくには、ひも状粘土の輪を狭めながら、内側から蛇腹状に重ねるように積む。》（写真 16）
- 花器の口縁部をつくる。（写真 17）

《花器の口縁部は円柱立体形のバランス、締りを演出する大切な部分であるので、全体を見渡して丁寧につくる。》

《花器の口縁部を厚めに丸めてつくる作例で、なめし皮で表面を整え、仕上げている。》（写真 18）

●花器に顔をつくり、装飾文様を施す

- 目や鼻、口など、顔の部分をひも状粘土を貼りつけ、レリーフ的につくる。（写真 19）
《花器の形状は造形性を主張する表現とな



写真 12



写真 13



写真 14



写真 15



写真 16



写真 17



写真 18



写真 19

る。それに対して、顔とその表情は花器に文学性、物語性を付加することになる。造形的な発想方法のひとつの視点である。》

《ひも状粘土はどべをつけ、接続面を潰し、ならしてしっかりと接続する。》(写真 20)

- ・ひも状粘土で装飾的な文様などもつくりすることができる。(写真 21)

《ひも状粘土を貼り付けた装飾模様の上から印花を押し、印花文と凹凸の材質感をつけることもできる。》(写真 22)

- ・粘土の成形と装飾が終了したら、花器をロクロから底を糸切りし、外しておく。(写真 23・24)

《花器をロクロに着けたまま乾燥が進むと、

粘土の収縮により形のバランスが崩れ、底に亀裂を生むのである。》

●素朴な化粧土について

※化粧土の彩色：創作陶芸講座4 / 「板状粘土をレリーフに構成して！」参照

- ・ここでの化粧土による彩色は白と2種類の茶色の3色に限定し、素朴で落ち着いた色合いの表現にした。また、それらを混色して使うので、色合いの幅は広がる。(写真 25・26)

※素朴な化粧土：創作陶芸講座6 / 「板状粘土を不定形に丸めた形から」参照

※ここで使用した3種類の化粧土、白は楽焼用粘土を泥漿でいしょう(どべ状)にしたものであ



写真 20



写真 21



写真 22



写真 23



写真 24



写真 25



写真 26

る。2種類の茶色は、白色系の楽焼用粘土の泥漿をベースに、酸化第二鉄（弁柄）と二酸化マンガン^{べんがら}を各1割程度混ぜたものである。酸化第二鉄は赤茶系、二酸化マンガンは黒茶系の色合いとなる。

●顔のある花器を化粧土で彩色する

- ・花器の生地はテラコッタ粘土を使用しているので、その生地色（焼成後）とのコントラストを考え合わせて彩色する。
- ・彩色する部分や装飾文様、混色による色合い、重ね塗りなどは、各自の表現イメージに合わせ、自由である。(写真 27・28・29)
- ・粘土べらや細工かんなどを使った線描き、

線彫りもできる。(写真 30)

- ・彩色した上から線彫りしたり、掻き落としたりすると、生地の色が出てくる。(写真 31)
- ・彩色した上から印花を押印し、凹凸をつけることもできる。(写真 32)
- ・表現イメージに合わせた抽象的な装飾模様を描くことも楽しい。(写真 33・34)
- ・顔や装飾模様が完成した「花器・三日月の夜に！」(写真 1)」である。(写真 35)

●完成後、十分に乾燥させて無釉で焼成した

- ・完成した「花器・三日月の夜に！」(写真 1)」の背面の装飾文様 (写真 36)



写真 27



写真 28



写真 29



写真 30



写真 31

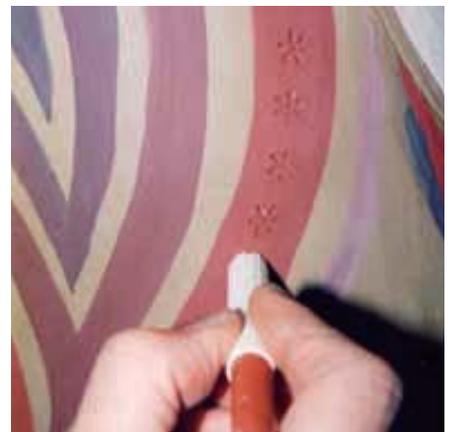


写真 32



写真 33



写真 34



写真 35



写真 36

表現のバラエティ



写真 37 完成作品
「花器・貴婦人」〔約 1150℃焼成／無釉〕（高さ約 32cm）



写真 38 完成作品 「麗しの壺」
〔約 1150℃焼成／無釉〕（高さ約 31cm）

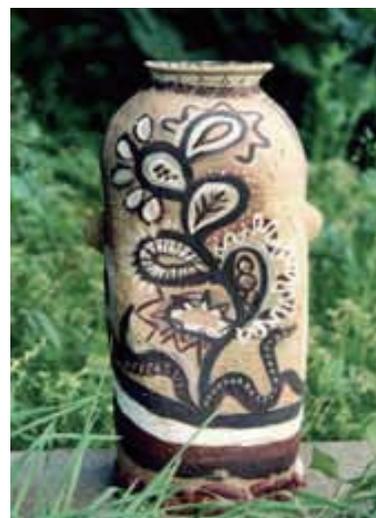


写真 39 「麗しの壺（写真 38）」の背面装飾模様



写真 40 応用作品
「オブジェ・ツイン姉妹 I」
〔約 1150℃焼成／無釉〕（高さ約 30cm）



写真 41 応用作品
「オブジェ・ツイン姉妹 II」〔約 1150℃焼成／無釉〕（高さ約 30cm）